

(3) シラバスチェック

シラバス改善のための組織的な取組は多くの部局で行われてこなかったことが指摘され、平成 23 年度第 4 回ファカルティ・ディベロップメント委員会において、全学のシラバスの問題点を把握し、改善の端緒を開くことを目的として、平成 24 年度開講科目について全学的なシラバスチェックを実施することが決められた。まず、

平成 24 年度に実施する第 1 回シラバスチェックは、ファカルティ・ディベロップメント委員会が実施することとなり、その実際の作業は大学教育機能開発総合研究センターの委員が担当された。第 2 回以降については、大学として教育責任を果たし社会に示すためにも、部局ごとにサンプル調査を実施することとなった。

対象科目と抽出

本学のシラバスシステムに掲載されている授業科目について、各部局のシラバスの科目数に応じてサンプルを無作為抽出しチェックを行った。部局ごとの調査対象シラバス抽出率は 10%（無作為抽出）とした。工学部の科目の抽出数は 121 であった。

シラバスチェックの項目と観点

1) 授業形態

どのような授業形態（講義、演習、実験・実習、実技など）をとるのか明示されているか。

2) 授業の目標

学習の到達目標について、具体的に示されているか。

学生を主体として書かれているか。(例)「〇〇について知り、説明できるようになる。」「〇〇について学び、××について考察することにより、△△できるようになる。」

文字数は、150 字程度を目安とする。

3) 授業内容

授業で取り上げる項目や重要な概念は明示されているか。

15 回分*の授業の内容やその相互の関連が示されているか。

文字数は、300 字程度を目安とする。

*「試験」は授業回数に含めない。

4) キーワード

キーワード（5 つ程度）は明示されているか。

5) テキスト

使用するテキストあるいは資料等が明示されているか。

テキストの著者、出版社、出版年などの書誌情報は示されているか。

6) 参考文献

(授業内容などから必要な場合) 参考文献は明示されているか。

参考文献の著者、出版社、出版年などの書誌情報は示されているか。

7) 評価方法・基準

授業の（達成）目標や授業の内容を踏まえ、評価方法及びその割合*が示されているか。

評価基準は明示されているか。

* (例) 授業の目標や内容を踏まえた、小テスト、口頭発表、中間テスト・期末テスト、学期末レ

ポートなど、予定している評価方法および成績評価における割合（毎回の授業後提出のコメントシート 20%、期末テスト 60%、学期末レポート 20%など）なお、「出席」は、欠格条件とし（履修授業科目の全授業時間数の3分の2以上出席しなければ、当該授業科目を履修したものと認めない）、いわゆる出席点は設けない。

8) 履修上の指導（注意）

受講にあたって必要となる条件や前提となる知識・能力が明示されているか。（例）「本授業に関連する基礎的な知識を有すること」「〇〇（授業科目名）の単位を修得済の者」「この科目を履修するためには、事前に〇〇科目を履修することが必要である（望ましい）」受講にあたって必ず持参すべきものが（あれば）明記されているか。（例）辞書・辞典、六法など。

* オフィスアワーについて、教員ごとに一覧表などにより明示することとし、各部局においてホームページ上の掲示板等に掲載することとする。

9) 事前学習

授業に臨むにあたって予習など事前に必要なことが明示されているか。

10) 事後学習

授業後の復習など事後に必要なことが明示されているか。

調査は、「学習の到達目標が具体的に示されているか」、「授業の目標や授業の内容を踏まえた評価方法・割合が示されているか」などの観点について行い、その結果、評価方法はあっても評価基準が明確でないなど不十分なものがあることが明らかとなった。また、本学で定めた「厳格で一貫した成績評価の方針」について、「評価結果についての説明」や「組織的点検」において、適正な運用が行われていない例が見受けられた。

解析結果

調査結果を元に、工学部 FD 委員会において、その結果を解析し、改善の提案を工学部教員に対して、提示した。

工学部は 15 項目中 8 つの項目において評価 1 が 90%以上であったことがわかった。それらは、「1 授業形態」「2 授業の目標（学習の到達目標）」「3 授業の目標（学生を主体として）」「5 授業内容（項目や重要な概念）」「9 テキスト（使用するテキスト、資料等）」「13 履修上の指導（注意）」「14 事前学習」「15 事後学習」である。うち、「5 授業内容（項目や重要な概念）」は評価 1 が 100%であった。評価 1 が 80~89%の項目は「10 参考文献（参考文献の明示）」の 1 つであった。評価 1 が 80%未満は、「4 授業の目標（文字数）」（64.5%）、「6 授業内容（15 回分の授業内容・相互関連）」（33.9%）、「7 授業内容（文字数）」（52.9%）、「8 キーワード」（75.2%）、「11 評価方法・基準（評価方法及び割合）」（76%）、「12 評価方法・基準（評価基準の明示）」（9.1%）の 6 項目であった。授業内容関連の一部の項目、また評価方法・基準関連の項目の記載に問題があると示唆される。

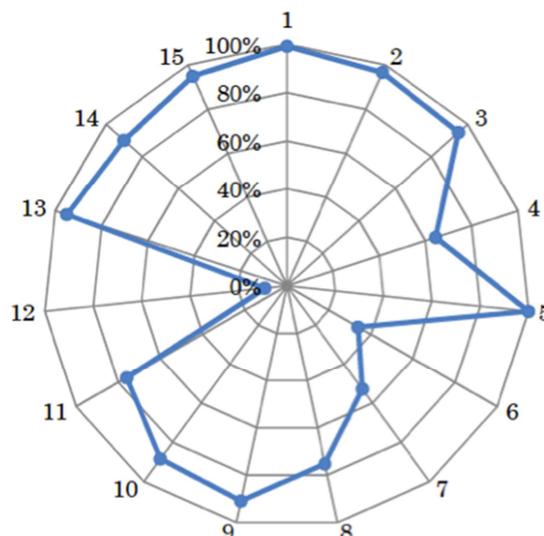
特に、評価の低かった「6 授業内容（15 回分の授業内容・相互関連）」と「12 評価方法・基準（評価基準の明示）」に関して、対策が急務であることが判明した。

「6 授業内容（15 回分の授業内容・相互関連）」

この項目について、不適切との判断が多かった理由を解析した結果、15回の授業内容に試験日を

表 工学部シラバスチェック結果（右 レーダーチャート）

	チェック項目	評価1 (A)	評価0 (B)	評価1の割合 (A) / 121*100
1	授業形態	120	1	99.2%
2	授業の目標（学習の到達目標）	117	4	96.7%
3	授業の目標（学生を主体として）	115	6	95.0%
4	授業の目標（文字数）	78	43	64.5%
5	授業内容（項目や重要な概念）	121	0	100.0%
6	授業内容（15回分の授業内容・相互関連）	41	80	33.9%
7	授業内容（文字数）	64	57	52.9%
8	キーワード	91	30	75.2%
9	テキスト（使用するテキスト、資料等）	110	11	90.9%
10	参考文献（参考文献の明示）	107	14	88.4%
11	評価方法・基準（評価方法及び割合）	92	29	76.0%
12	評価方法・基準（評価基準の明示）	11	110	9.1%
13	履修上の指導（注意）	115	6	95.0%
14	事前学習	109	12	90.1%
15	事後学習	115	6	95.0%



当てていることが明らかになった。さらに、JABEEにおいて、試験日を含めた内容の書き方が推奨されていたため、多くの教員がこれに従い、不適切と判断されるに至ったことが明らかになった。この点は、工学部の全教員に対して、教授会、学科長からの各学科への通達、FD委員長からのメール等によって周知を行い、改善を行った。

「12 評価方法・基準（評価基準の明示）」

評価方法の基準の明示の必要性を周知した。一方で、工学部外の教員による評価であることから、理解不足や誤解があるのではないかという意見が出た。次年度から、工学部内部でのシラバスチェックとなるため、その結果を見てさらなる改善へとつなげていきたい。

個々の項目について改善の望まれる問題点の指摘

「1 授業形態」については、授業形態以外の内容が記載されている、という問題があった。

「2 授業の目標（学習の到達目標）」については、授業の目標に関して学習の到達目標が記載されていない、到達目標以外のことが記載されている、という問題があった。

「3 授業の目標（学生を主体として）」については、学生を主体に記述されていない、という問題があった。

「4 授業の目標（文字数）」については、基準文字数（150字±100字）より文字数が超過しているシラバスが42件、不足しているシラバスが1件あった。

「6 授業内容（15回分の授業内容・相互関連）」については、15回分の授業内容とその関連性が示されていない、授業間の関連がわかりにくい、記述が簡潔すぎる・大まかすぎる、といった問題があった。

「7 授業内容（文字数）」については、基準文字数（300字±100字）より文字数が超過しているシラバスが14件、不足しているシラバスが43件あった。

「8 キーワード」については、基準キーワード数（2～9 個）よりキーワード数が超過しているシラバスが 27 件、不足しているシラバスが 3 件あった。

「9 テキスト（使用するテキスト，資料等）」については、関連（前段階レベルの）科目に同じと記載されている，といった問題があった。

「10 参考文献（参考文献の明示）」については、必要があれば講義中に指定すると記載されている，各教員が指示する，といった問題があった。

「11 評価方法・基準（評価方法及び割合）」については、評価方法・基準以外のことが記載されている，記載要件を満たしていない，評価方法・基準が明確でない，といった問題があった。

「12 評価方法・基準（評価基準の明示）」については、評価基準が明示されていない，評価方法は示されているが基準が明確でない，といった問題があった。

「13 履修上の指導（注意）」については、履修上の指導（注意）以外のことが記載されている，記載がない，といった問題があった。

「14 事前学習」については、記載されていない，といった問題があった。

「15 事後学習」については、記載されていない，といった問題があった。